

<重点目標>【地域課題】

資料1-4

包括名		ごてん		課題番号		ア・イ	
1 中期目標 （令和8年度の目指す姿）				問題が複雑化する前に発見・対応ができるためには、地域で何が必要なのか検討する場ができています。			
2 地域課題				3 地域課題の選定理由		4 地域の現状	
新規転入者の町内会等への積極的な参加が少なく、近所での交流がほとんどない。身寄りのいない方の場合、本人の事を把握している方が親族・近所におらず、包括等に繋がりにくい。 古くからの住人の方の中には「近隣の知人に知られたくない」「自分たちで何とかする」という考え方があり、家族外への相談を控える傾向がある。				・問題が複雑化してから表面化するケースが多い。 ・8050問題等、重層の支援が必要なケースが増えているが、支援を拒む高齢者も多い。 ・内縁関係のパートナーとの同居というケースが増え、パートナーが要介護状態、認知症になり家族の課題が出てくるケースが増えている。		・人口18288人。高齢化率28%。 ・圏域内に長寿会は6団体あるが、各団体ともに登録者数、参加者数が減少している。 ・町内会を抜ける高齢者も増えていて、横とのつながりが希薄になっている。 ・自転車で移動する高齢者が多い。 ・福祉村はなく、各地域団体がそれぞれに支援している。	
5 実施計画							
		（1）短期目標（年度ごとの目指す姿）		（2）取組予定		（3）予定時期	
令和7年度		（1）長寿会、自治会、民生委員に対し、包括の役割周知を行う。 関係機関と相談や情報共有しやすい関係を構築する。 （2）地域住民、民生委員、自治会で包括の役割周知、認知症への理解の周知を行う。		1 広報誌を作成し長寿会会員や通いの場サロンに配布、自治会掲示板への掲示依頼、SNSに掲載し包括周知を図る。 2 中原公民館まつり、南原公民館まつりに参加し包括チラシを配布し包括周知を図る。 3 サロンや長寿会、独居高齢者食事会に参加して包括周知を行う。 4 自治会や民生委員の定例会に参加し包括周知と情報共有を行う。 5 長寿会、小学校にて認知症サポーター養成講座の開催と周知活動を行う。		1 年3回（5月、8月、11月） 2 2月、3月 3・4 4月～3月	
令和8年度		問題が複雑化する前に早期発見・早期対応することができる。		1 自治会、サロン、独居高齢者食事会、民生委員定例会に参加して各団体と情報共有し早期発見に努める。 2 困難ケースは関係機関（民生委員、民間会社、医療機関、介護事業所等）と情報共有する。			
6 実施経過							
		取組 予定	① 前期の実施結果	② 前期の振り返り		③ 前期の振り返りを踏まえた後期の取組予定	
						時期	取組予定
令和7年度 前期		1	・6月広報誌を作成し長寿会・通いの場サロン等で配布し、自治会の掲示板への依頼は行った。包括での取り組みや活動内容（体操、行事等）をSNSに掲載し発信した。	・広報誌を見た方が友人を連れて体操やイベントに参加された。包括を知った方から、さらに包括周知の輪が広がっている。 ・自治会には広報誌配布ができていないため、高齢者以外にも包括を知ってもらう取り組みを行う必要がある。		10月 12月	・自治会定例会に参加し、包括周知を行う。 ・広報誌にホームページのQRコード掲載を検討する。
		2	・前期公民館まつり開催なし。後期に開催予定。			2～3月	・地域住民に関心を持ってもらえるよう配布物、出店内容を検討し準備を行う。
		3	・長寿会、通いの場サロンに毎月参加し相談先として包括があるという事を周知できた。 ・参加者の中で生活が大変になってきているようだ等、気になる参加者について代表者と情報共有する事ができた。	・毎月参加する事で、包括職員の顔を周知する事ができた。 ・ちょっとした気づきの段階で包括に聞いてみたという方もいて、相談しやすい関係構築に繋がっている。		毎月	・引き続き、通いの場サロンや長寿会に参加し相談しやすい関係性の構築、包括周知を行う。 ・通いの場サロンについては、包括職員でローテーションを組み包括職員が参加できる体制を作る。
		4	・7月中原民児協定例会、8月中原民児協定例会と南原民児協定例会に参加し包括周知と情報共有を行った。自治会の定例会は開催日時と包括営業時間が合わず参加出来ていない。	・普段電話でのやりとりのみの民生委員とも顔を合わせて相談や話をする事ができた。 ・地域で起きたケースについて一緒に何ができるか話し合う事ができた。 ・新任の民生委員も増えたため、相談や情報共有できる機関として包括の役割を伝えていく必要がある。		9～3月	・今後も民児協定例会への参加を継続する。 ・11月南原自治会定例会に参加し包括周知・情報共有を行う。
		5	・小学校、医療機関等で認知症サポーター養成講座開催し包括周知を行った。当初の計画より多く認知症サポーター養成講座を開催する事ができた。	・医療機関への包括周知の活動が医療機関での認知症サポーター養成講座開催に繋がった。 ・小学校の生徒からは、お年寄りに対して優しくしますと話があり認知症への理解に繋ぐ事ができた。		9～3月	・引き続き認知症サポーター養成講座の周知を行う。 ・依頼があった場合は都度開催する。

	取組 予定	① 令和7年度の取組予定の実施結果		
令和7年度 (年間)	1	・ 広報誌を作成し長寿会・通いの場サロン等で配布し、自治会の掲示板への依頼は行った。包括での取り組みや活動内容（体操、行事等）をSNSに掲載し発信した。		
	2	・ 2月南原公民館祭り、3月中原公民館祭りにて包括ブースを出店し包括周知、健康チェックを行った。		
	3	・ 長寿会、通いの場サロンに毎月参加し相談先として包括があるという事を周知を行った。 ・ 参加者の中で生活が大変になってきているようだ等、気になる参加者について長寿会・通いの場サロンの代表者と情報共有する事ができた。		
	4	・ 7月中原民児協定例会、8月中原民児協定例会と南原民児協定例会に参加し包括周知と情報共有を行った。 ・ 11月南原自治会定例会に参加し包括周知・情報共有を行った。		
	5	・ 小学校2カ所、歯科医院1カ所、学童1カ所、長寿会1カ所から依頼があり認知症サポーター養成講座を開催した。		
	③令和7年度の振り返り（短期目標の達成状況・令和8年度に向けての改善点など）			
	・ 長寿会、通いの場サロンに毎月参加することで相談しやすい関係構築に繋がっている。また、包括を知っている方が友人を連れて体操やイベントに参加される事もあり、包括周知の輪が広がっている。 ・ 医療機関への認知症サポーター養成講座の周知を行う事で、認知症サポーター養成講座開催に繋がった。 ・ 小学校、医療機関等で認知症サポーター養成講座を実施し、包括の周知と認知症の理解を深めることができた。 ・ 地域住民、医療機関等がどんな時に包括に相談したら良いかが分かるとより早期発見・早期対応に繋がるため、どんな時に相談して欲しいのかを地域住民、医療機関、地域企業に周知する必要がある。			
	④中期目標達成に向けた計画の進捗状況について			
	おおむね順調			
7 令和8年度修正更後の短期目標及び取組予定				
	(1) 短期目標（年度ごとの目指す姿）（変更がない場合には記入の必要はありません）		(2) 取組予定（変更・修正がない場合にも記入してください。）	(3) 予定時期
	地域住民や医療機関、地域企業がどんな時に包括に相談した方がいいのか知る事ができる。		1 どんな時に包括に相談して欲しいかのチラシ内容を検討する。配布先によって内容を変更するか検討する。 2 どんな時に包括に相談して欲しいかのチラシを作成する。 3 どんな時に包括に相談して欲しいかのチラシを地域企業、医療機関に配布し周知する。 4 どんな時に包括に相談して欲しいかのチラシをＳＮＳや広報誌に掲載し周知する。	1 4～6月 2 7月 3 8～10月 4 11月
8 令和8年度 短期目標修正理由				
問題が複雑化する前に早期発見・早期対応するためには、地域住民や医療機関、地域企業にどんな時に包括に相談して欲しいか周知する必要性があると考えたため。				
9 令和8年度 取組予定修正理由				
より効果的に多くの人に周知していくために、取り組み予定を変更した。				